

(個別研修) 菊井 妙子

研修テーマ：障害者の高齢化や重度化に伴う包括的アプローチの方法と その中で看護師の果たす役割について

研修先：Froedtert & the Medical College of Wisconsin Center for Advanced Care (USA ウィスコンシン州)

研修日：5月8日～5月11日

目的：①アメリカのホスピスケアについて学ぶ（日本との違いについて）

②多職種や在宅医療機関との連携について

内容

- ・アメリカ終末期医療：ホスピスは、受給対象は余命6カ月以内であること。(医師の診断書が必要)
余命6カ月と診断された患者の余生を、本人やご家族の意向に沿って行えるケアである。その間にも治療を完全に諦めるのではなく、治癒することを目的とせず、苦痛がないようにケアをすることが基本となる。(QOLの向上を目的としている考え方は、日本と同じである)
- ・ホスピスケアの対象は、末期癌によるものだけではなく、HIV・心臓病・脳卒中・認知症・呼吸器疾患などのあらゆる疾患が対象である。
- ・アメリカのホスピスケアは公的保険であるメディケイドによって支払われるため、ケアにかかる費用も抑えることができる。ホスピスケアを受給している最も多い場所は自宅で、次に老人ホームなどの施設、ついでホスピス入院施設となっているとのことであった。(日本でも自宅で最期を迎えたいという人が多いが、現状は病院や施設で最期を迎えることがまだ多い)
- ・ホスピスの提供を行う際にはホスピスチームが多職種により構成され、医師・看護師・薬剤師・在宅ヘルパー・ソーシャルワーカー・理学・作業療法士や言語聴覚士、音楽療法士・スピリチュアルカウンセラー・ボランティアなど一人ひとりにあったホスピスケアが受けられるように、チームでケアを行っている。
- ・ホスピスケアプログラムには患者に対する継続的なケアの他に、「介護者に対するレスパイトケアも含まれる」という事がとても興味深かった。特に在宅でのケアには、レスパイトケアの提供などにより介護者の休息を得ることも大変重要であると感じた。



Center for Advanced Care



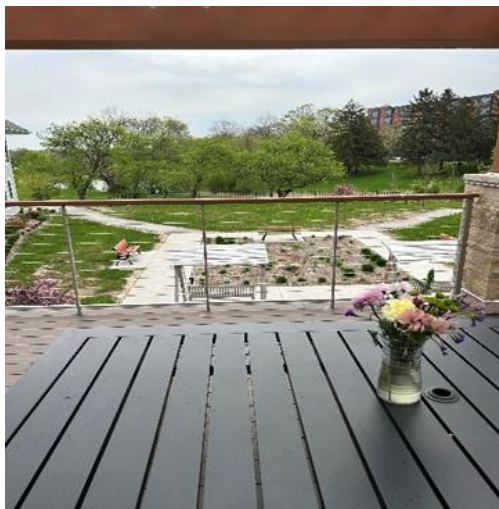
院内の家族がくつろげるスペース（広く眺めもよい）

研修先 : Kathy,s House (患者・家族と一緒に宿泊できる家) (USA ウィスコンシン州)

研修日 : 5月12日

内 容 : Patty・M (社長兼 CEO) さんに話を聞く

- ・キャシーズ ハウスは非営利のホスピタルゲストハウスで、Froedtert Hospital に入院している患者の家族、または通院する患者・家族のための宿泊施設である。
- ・2000年、3人の幼い娘を持つ、キャシー・ヴォーゲル・クトナーさん(39)が、非ホジキンリンパ腫で他界され、かねてよりキャシーさんが「家族が病院の近くに泊まれる場所を作りたい」との希望があり、キャシーさんの両親が、病院のゲストハウスという彼女のビジョンを実現させた。
- ・2001年7月に18部屋でKathy,s Houseがオープンし、その後2021年6月、病院ゲストハウスの全国モデルとなる38室の新しいハウスをオープンした。
- ・活動費用は、ほぼ100%個人の寄付と、一部Froedtert Hospitalからのサポートであるということ、そして入居している患者・家族の支払いはもらっておらず、安心・安全に家と同じようにリラックスできる場所の提供を行うということを目的にしているとのことであった。



宿泊する患者・家族がくつろぐことができるデッキ。デッキからは中庭が見渡せ、季節の花や周囲の芝生・植林などを見ることができる。

すぐ近くに病院があるが、Kathy,s House 建物内からは病院が見えない構造になっている。ここでは病気の事が少しでも忘れることができるように、家にいるという安心感を持ってもらいたいからとのこと。



各部屋ともに窓は大きく明るい印象。ベッドルームとリビングルームの2部屋がある。また、トイレ・バスルームもスペースは広く、部屋には手すりがつけられている。